

医療法人済恵会 広報誌

オアシス79号

広報誌オアシス 制作 広報委員会
〒379-0116 群馬県安中市安中3532-5
Tel (027) 382-3131 FAX (027) 382-6568

安心して生活できる医療・介護・行政の連携を目指して

医療法人 済恵会

理事長 須藤 英仁



医療法人済恵会の患者さん、従業員の皆さんあけましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。今年もどうぞよろしくお願ひ致します。

昨年は病院が25床の増床、老人保健施設めぐみが17床の増床となり法人全体余裕をもって病床運営ができたと思います。相変わらず国の医療費抑制政策は続いておりますので、一般病床の平均在院日数の減少、看護必要度25パーセント以上の維持、回復期病棟における退院時の回復状態の改善なども求められており、スタッフ一同緊張感を持って病院運営を行っております。

一昨年以來開始した地域包括ケアの実践も安中医師会の8ヶ所の医療機関の先生方に参加していただき順調に育ってまいりました。先日の集計では平成27年9月から平成28年10月まで約400人の患者さんを紹介して頂き80名の患者さんが入院されました。地域の先生方に逆紹介できた

患者さんも300人以上となっております。

当院では専門外のため高崎総合医療センターや富岡総合病院へ転院せざるを得なかった患者さんも20名いました。病気の治療は日進月歩です。その時最適な治療の選択も非常に大事だと思います。これからも確実に迅速な診断に力を注ぎ、患者さんにとって最適な治療の選択を心がけてまいります。

このように地域の先生方のおかげで医療機関の連携は形が出来てまいりましたが、患者さんの生活を支える介護との連携はもう少し努力が必要です。安中市内だけで介護保険に関係する事業所が150箇所もあります。医療機関が40施設程度ですので、3倍以上の事業所が存在することになります。今後はこれら介護保険事業所との連携を深め、高齢者の方の生活を支えていかなければなりません。

安心して生活できる医療・介護・行政の連携を目指して

医療法人 済恵会
理事長 須藤 英仁



更に重要なことは安中市の姿勢です。安中市は道路、水道、電気、交通手段など基本的なインフラ整備が大きな仕事です。しかし、これからは住民の生活を支えるインフラ整備が重要だと思います。これは私の造語ですがリビングインフラ(リビングとは生活、人生という意味です)というものです。

これは高齢者の一人暮らし、老々介護世帯などの安否確認からはじまり、徘徊する認知症患者のGPS装置の配布、給食サービス、交通弱者に対する輸送手段等々、高齢者が生活できる支援を指すものです。これらは作っただけでは機能しません。市職員から始まり実際に利用する住民の方々、医療、介護の関係者すべての人が知っておく必要があります。行政からのしっかりした広報が必要です。そして安中市のリビングインフラを十分に活用し、そのうえで医療介護事業者が各高齢者の生活を支えるためどのような援助が必要か検討し、連携すればよいのです。

お隣の高崎市では、富岡賢治市長自

らが高崎市のリビングインフラについて大変分かりやすく説明しております。その一例を挙げます。トイレのそばにセンサーを設置し12時間以上動きがない時はすぐに駆け付けるそうです。つまり人間は12時間以上トイレを使用しないことはない、12時間動きがないことは倒れているかもしれない、という最悪の事態を想定して行動をとっているという事です。これまで約100回安否確認に出動し、50の方が倒れていて亡くなったそうです。しかし半分の方は出動により命が助かったのです。このように行政の行うリビングインフラの整備は欠かせません。

今年は医療機関同士の連携はもちろんのこと、安中市当局、介護保険関係の方々とともにさらに連携を深め安中市の高齢者が安心して生活できる環境を作るため努力してまいります。本年もよろしくお願い致します。

医療法人 済恵会 理事長 須藤 英仁

看護部今年の抱負

新年明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願い致します。

さて昨年当院では、3月より回復期リハビリテーション病棟、療養型病棟を増床し、病床数120床となりました。それに伴い地域連携室の職員も増員し、急性期から回復期、慢性期さらには地域との連携を強化することを目指しました。そして安中市の皆様が、住み慣れた地域で安心して治療・療養・生活ができることを目的に、地域連携会議も毎月開催しております。地域連携室室長柳澤肇医師、石川看護課長を中心とした当院の職員と、地域の先生方、医療介護施設の他職種の方に参加を頂いております。顔の見える

連携を今後も継続していくことが重要と感じております。

また看護部では、昨年初めて感染管理認定看護師教育課程へ職員を派遣できました。5月が認定試験です、当院初の認定看護師誕生が待ち望まれます。今後も看護の質の向上を目指し、後に続く看護職員の育成に力を注ぎたいと思います。また自ら学ぶよう教育の方法を、考え続けなくてはいけないと思います。

本年も一歩前へ前進を続けるよう努力しますので、よろしくお願い致します。

看護部長 佐藤 明美

今が旬！白菜のお話

寒い日々が続いていますね。皆さんいかがお過ごしですか？

寒くなると温かいものが食べたくなりますよね。鍋を食べる方も多いのではないのでしょうか？鍋は野菜がたっぷり食べられるのもいいところです。今回は鍋によく使われているであろう、冬が旬の白菜についてお話します。

白菜はビタミンCが多く含まれているため、風邪予防や免疫力アップ、美肌効果が期待できます。カリウムも比較的多く、体内の老廃物の排出を助ける働きがあるため、むくみの解消にも効果的です。ただしビタミンCは長時間加熱すると壊れやすい性質があります。鍋にするなら、シャキシャキとした食感が残る程度にすると良いかもしれません。また、カリウムは水に溶けやすい栄養素なので、鍋だとスープに良く溶け出

しています。カリウムを摂取したい場合には、薄味にしてスープまでいただくようにしてみてもいかがでしょうか？その他には、豊富な食物繊維があり、胃腸の働きを活発にして便秘を解消し、大腸がんの予防に役立ちます。白菜は100gあたり14kcalと低カロリーで、約95%は水分でできているので、ダイエット向きの食材でもあります。

白菜の選び方のポイントは、外側の葉がいきいきとした緑色で巻がしっかりしているもの、切り口がみずみずしく葉が隙間なく詰まっているものがおいしいのでおすすめです。いかがでしたでしょうか？今が旬のおいしい白菜をぜひ食べてみてくださいね。

栄養課 岡田



介護老人保健施設めぐみより皆様へ

新年、明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはお健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年5月より「老健めぐみ」は、在宅復帰強化型施設として入所ご利用者様の在宅復帰をより一層支援させて頂きました。介護老人保健施設の理念と役割として、ご利用者様の尊厳を守り、安全に配慮しながら、生活機能の維持・向上を目指し総合的に援助を行っています。また、ご家族・地域の皆様、各種事業者、保健・医療・福祉機関と協力して、安心して自立した在宅生活が続けられるよう支援を

しています。そして、リハビリテーション施設として、体力や基本動作能力の獲得、活動や参加の促進、家庭環境の調整など生活機能向上を目的に、集中的な維持期リハビリテーションを行っています。

「老健めぐみ」が、今年最も力を入れて行っていきたい項目としては、地域に根ざした施設運営です。ご家族や地域の皆様と交流し情報提供を行い、様々なケアの相談に応じていきます。関係機関との連携を益々図り、地域の皆様の拠り所となる施設を目指したいと思っております。本年も「介護老人保健施設めぐみ」を宜しくお願い致します。

介護老人保健施設めぐみ 入所利用者募集中

要介護1～5の認定を受けられている方。

長期（3ヶ月）短期（1泊）入所受け入れ可能です。

まずは相談員の新井または副施設長の大澤までお電話ください。迅速に相談対応させていただきます。

平日 9時 ～ 18時 ☎ (027)382-5951



須藤 暁子 著

子育て奮闘中の母ちゃんドクターが書いた

「男の子ママ」の悩みをぶっとばす言葉

書店・AMAZON・楽天で販売中